

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

国際関係学部

【カリキュラム・ポリシー】

島根県立大学のカリキュラム・ポリシーの下、国際関係学部国際関係学科は、教育研究上の目的及び学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、基礎教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を行います。

【教育課程編成の考え方】

(1) 1年次を中心に「基礎教養科目群」を配置し、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を涵養するために、社会科学・人文学・自然科学の「一般教養科目」を履修するとともに、情報・統計処理の基礎を学ぶ「情報・統計科目」を履修します。

(2) 「基礎教養科目群」に「語学・多文化理解科目」を配置し、英語及び北東アジア言語（中国語・韓国語・ロシア語）を履修します。

(3) 初年次教育の柱として、大学の学修にふさわしい表現力を備えるために、「アカデミックライティング」を必修とします。

(4) 専門的知見修得の基盤となる知識を身につけるために、1年次から2年次を中心に「専門基礎科目群」を配置し、「国際関係学科共通科目」と「国際関係コース科目」もしくは「国際コミュニケーションコース科目」における必修科目、選択科目から所定の単位を体系的に履修します。

(5) 専門的知識について基礎から応用へと体系的に発展・高度化させて学修するために、2年次後期から3・4年次を中心に配置された「専門科目群」の「国際関係コース科目」もしくは「国際コミュニケーションコース科目」の選択科目から所定の単位を履修します。

(6) 4年次には、高度な専門的知識を活用して、卒業研究に関わる調査・研究を遂行します。

(7) 全体を通して予習・復習時間を十分に取れるように、履修登録単位数の上限設定（キャップ制）を導入します。

【学習内容及び学習方法】

(1) 教養教育、専門教育の知識を修得するために、主として講義形式の科目を履修します。

(2) 英語や北東アジア言語の実践的な運用能力および多彩な他者と共感する姿勢やコミュニケーションを図る態度を身につけるために、主として演習形式の科目を履修します。

(3) 能動的・主体的に学修する態度を涵養するために、すべての学年で演習などの少人数教育を履修します。専門教育科目として2年次に基礎演習、3・4年次に専門演習を配置し、必修科目に指定します。演習では、学生が自ら研究課題を設定し、主体的に調査・研究に取り組んだうえで、研究報告を行い、その内容について他の参加者と議論を行います。

【学修成果の評価方法】

(1) 学修の成果は、各科目が定める方法で行う試験により厳格に評価します。評価の基準は、各科目のシラバスに記載された到達目標をどの程度達成できているのかという観点から定めます。

(2) 試験による評価については、中間・期末試験、レポート試験、小テスト、平常点などを科目の性質に応じて組み合わせて行い、その方法と配点は開講に際してシラバス等により明示します。

(3) 中間・期末試験、レポート試験では、具体的な評価の基準を定め、異議申し立て制度を設置することにより、厳格で公平な成績評価を行います。

地域政策学部

【カリキュラム・ポリシー】

島根県立大学のカリキュラム・ポリシーのもと、地域政策学部地域政策学科は、教育研究上の目的及び学位授与の方針に掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、「基礎教養科目群」「専門基礎科目群」「専門科目群」を配置したうえで、各科目群の科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を行います。

【教育課程編成の考え方】

1. 基礎教養科目群

(1) 幅広い教養に基づく広い視野と思考力、他者への想像力に基づく倫理感、将来の進路に向けて力強く踏み出す力を身につけることを目的に、1年次を中心に、学科共通科目として「一般教養科目」「語学・多文化理解科目」「キャリア科目」を配置します。

2. 専門基礎科目群

(1) 地域社会の特性と課題について理解を深め、課題について考察する際の基本的な知識や理論・調査手法・国際的な視野を身につけることを目的として、1年次から2年次を中心に、学科共通科目として「学科コア科目」「リサーチ科目」「国際理解科目」「実習科目」を配置します。

(2) 1年次の「演習科目」では、コースごとの基礎演習を必修とし、資料の探索と分析、レポートの作成やプレゼンテーションの技法など、論拠を示しながら論理的に自分の考えをまとめ、発表し、議論する基礎的な素養を身につけます。

(3) 各コースの学びの基礎となる基本的な概念・知識・理論を学ぶことを目的として、1年次から2年次において、コースの中核となる科目を、コースごとに「コア領域科目」として配置します。また、「コア領域科目」と併せて学修することによって、多角的な視点と多様な知識を獲得し、各コースの学びを拡充する科目を、コースごとに「関連領域科目」として配置します。

3. 専門科目群

(1) 「基礎教養科目群」と「専門基礎科目群」の学修をもとに、各コースの学びを深化・発展させる専門的な知識や理論を学ぶことを目的として、コースごとに「コア領域科目」を配置します。また、「コア領域科目」と併せて学修することにより、多様な専門的知識を融合させて政策を構想する際の基盤となる科目を、コースごとに「関連領域科目」として配置します。

(2) 各コースにおいて、2年次から4年次の「演習科目」を必修とし、それぞれの演習テーマにより、高度な専門知識を修得するとともに、多様な知識を融合させて政策を構想するための思考力を身につけます。4年次には、それぞれのコースでの4年間の学修成果のまとめとして、卒業研究に関わる調査・研究を遂行します。

4 全体を通して予習・復習時間を十分に確保できるように、履修登録単位数の上限設定（キャップ制）を導入します。

【学習内容及び学習方法】

(1) 教養教育、専門教育の知識を修得するために、主として講義形式の科目を履修します。

(2) 多様な知識を融合させて政策を構想するための思考力及び政策構想を分かりやすく発信するための技術を身につけるために、講義形式の科目の履修とともに、すべての学年で演習などの少人数制の科目を必ず履修します。

(3) 多様な他者との協働を視野に入れて物事に取り組む態度を培うために、講義形式の科目や演習科目の履修に加え、地域をフィールドとする実習科目を履修します。

【学修成果の評価方法】

(1) 学修の成果は、各科目が定める方法で行う試験により厳格に評価します。評価の基準は、各科目のシラバスに記載された到達目標をどの程度達成できているのかという観点から定めます。

(2) 試験による評価については、中間・期末試験、レポート試験、小テスト、平常点などを科目の性質に応じて組み合わせて行い、その方法と配点は開講に際してシラバス等により明示します。

(3) 中間・期末試験、レポート試験では、具体的な評価の基準を定め、異議申し立て制度を設置することにより、厳格で公平な成績評価を行います。

看護栄養学部

看護学科	健康栄養学科
<p>市民的教養を涵養するとともに、看護学もしくは栄養学の基礎的な知識・技術を修得し、科学的かつ倫理的判断に基づく実践能力を有した専門職業人を育成することを目指します。加えて、人口減少・少子高齢化・医療資源の偏在など島根県が抱える地域課題を踏まえ、人々の健康と生活の質の向上に寄与できるよう教育課程には以下の特色を持たせています。</p> <p>(1) 市民的教養と多様な価値観を認める豊かな人間性を涵養するとともに、看護学や栄養学の基盤となる人間を深く理解するための科目群を設けています。</p> <p>(2) 島根県で暮らす人々の生活と健康課題を理解し、課題解決・地域創成のための創造的な思考と参画力を修得するために、地域に赴くフィールドワークや実習を系統的に配置しています。</p> <p>(3) 人々に質の高い保健・医療・福祉サービスを提供する上で不可欠な多職種連携ができる基盤を形成するために、看護学科と健康栄養学科双方の学生がそれぞれの専門性を理解し学び合うことができる科目群を設けています。</p> <p>(4) 看護学・栄養学それぞれの基礎的な知識・技術を修得し実践能力を高めるために、基礎的な科目から応用発展的な科目を系統的に配置しています。</p> <p>(5) 変化する社会情勢に対応できる専門職であり続けるために、フィールドワーク・演習・実験・実習などの体験型学習を通して主体性や自己研鑽する力を育む学修機会を段階的に設けています。</p>	
<p>(1) 看護を実践する能力の育成 医療の高度化、入院患者の重症化、在院日数の短縮化に伴う在宅療養移行事例の増加等、看護を取り巻く環境は、大きく変化している。そのような環境の中にあって、医療安全の確保や人権等に配慮しながら複雑多岐にわたる看護業務を的確に遂行できるよう、ヒューマンケアスキルの修得を図る。また、対象を理解し根拠に基づく的確な臨床判断と看護、健康の保持増進にかかわる支援、健康問題を抱えた人や家族への看護等、保健・医療・福祉施設や地域での実習等を通して看護実践能力の育成を図る。</p> <p>(2) 相手を理解し協働する能力の育成 看護職は、様々な健康問題を抱え、多様な価値観をもつ、幅広い年齢層の人間を対象とするため、多様な価値観や立場の違いを理解し、人間の尊厳と権利を尊重する視野</p>	<p>(1) 市民としての教養の修得及び実践力の育成 幅広く基礎的な知識や考え方、外国語能力を身につけ、市民に必要とされる教養を培う。</p> <p>(2) 管理栄養士に必要とされる専門性及び実践力の育成 管理栄養士として必要な専門的な知識と技術を身につけ、その発展的活用を通して、課題発見、問題解決能力を培い、個々に応じた栄養の指導を実践するための能力を育成する。</p> <p>(3) 関連職種連携に必要とされる能力及び職業倫理に基づく実践力の育成 管理栄養士としての倫理観や職業観を培い、チームの一員として、関連職種と連携し、協働できる力を育成する。</p>

の広い柔軟な思考力、深い洞察力、豊かな人間性や高い倫理観が求められる。加えて、的確な看護を提供するためには、患者・家族等の代弁者・擁護者として、傾聴力や説明力が求められ、また、チームとして保健・医療・福祉等の多職種とも円滑に意思疎通がとれることが求められる。このため、市民的教養を身につけることで人間と社会への理解を深め、人権を尊重する意識の涵養につなげる教育を行う。また、コミュニケーション能力や豊かな感性、倫理性を基盤に、人に寄り添い、人間性や個別性を尊重した援助的な人間関係を形成できる能力を養成するとともに、広い視野をもち、保健・医療・福祉等に携わる人々や当事者とその家族、市民等と協働できる能力の育成を図る。

(3) 地域の特性と健康課題を探求する能力の育成

県内各地での実習や交流を通じて、地域の保健・医療・福祉の現状と課題を認識し、住み慣れた地域における生活の継続性や自立性、意思の尊重等のQOL並びに支援方法を理解するとともに、これらの課題について、批判的・創造的に思考し、その原因や対策を多角的な視点から客観的に分析し、論理的に整理した上で、主体的に発信・行動する能力の育成を図る。社会資源の活用及び保健・医療・福祉に関する法律や制度への理解を深め、政策や組織等の観点も含め多職種間と連携、協働できる能力を育成する。

(4) 地域の栄養改善のための実践力の育成

地域社会の成り立ちや関係者・関係機関の連携・協働、行政による健康・栄養改善への取組を理解し、地域の健康づくり、公衆衛生の改善に参画することができる能力を育成する。在宅ケアにおける関連職種との連携について理解し、在宅における栄養ケアが実践できる能力を育成する。

人間文化学部

保育教育学科

地域文化学科

人間文化学部では、4年間の体系的な教育課程を編成するため、科目の大きな区分として〔学部共通基礎科目〕〔学科基礎科目〕〔専門基幹科目〕〔専門発展科目（保育教育学科）／専門科目（地域文化学科）〕の4つの科目区分を設け、以下のとおりカリキュラムポリシーを定める。

- 〔学部共通基礎科目〕には、〔教養科目〕〔しまねの文化〕〔体育〕〔外国語〕の科目群を設ける。〔教養科目〕では、人間と文化、社会、自然のそれぞれの関わりについて基礎的な知識を身に付ける。〔しまねの文化〕では、地域における人々の暮らしや文化に対する理解を深め、地域共生の精神を育む。〔体育〕では健康に対する理解を深め、体力増進を図る。〔外国語〕では、英語に次ぐ第2外国語としてアジア地域の言語を修得する。
- 〔学科基礎科目〕には、保育教育学科、地域文化学科の両学科に、〔ライフデザイン〕〔言語リテラシー〕〔情報リテラシー〕の科目群を設ける。〔ライフデザイン〕では、初年次教育並びにキャリア教育を行う。〔言語リテラシー〕では、英語の基礎的な運用能力を身に付ける。〔情報リテラシー〕では、コンピュータの知識と技術、並びに情報倫理について修得する。
- 〔専門基幹科目〕〔専門発展科目（保育教育学科）／専門科目（地域文化学科）〕には、保育教育学科、地域文化学科の両学科の教育課程に応じた科目群をそれぞれ設け、人間と文化に関する広い視野と高い専門性を育成する。

1 科目区分〔学科基礎科目〕を設け、初年次教育及びキャリア形成を行う〔ライフデザイン〕科目群、保育教育職の基礎的なリテラシーを養成する〔言語リテラシー〕科目群及び〔情報リテラシー〕科目群を配置する。

2 地域の課題を自ら探究する能力の育成を行うために、科目区分〔基幹研究プロジェクト〕を設け、アクティブラーニングによる地域活動科目や、課題意識に基づく自主的研究活動推進のための科目を配置する。

3 地域の人間と文化の魅力を、次世代を担う子どもたちに継承することができる表現力を育成するために、〔基幹研究プロジェクト〕の必修科目として「表現研究(児童文化)I・II」「言葉研究(読み聞かせ実践)」のアクティブラーニング科目を設け、〔専門基幹科目〕の指導法・演習等の基盤とする。

4 子どもの発達や学習過程についての高い専門性と考察力の育成を段階的に着実

1 科目区分〔学科基礎科目〕を設け、初年次教育及びキャリア形成を行う〔ライフデザイン〕科目群、基礎的英語力を養成する〔言語リテラシー〕科目群、情報処理能力を養成する〔情報リテラシー〕科目群を配置する。

2 地域の文化に関する理解を深めるため、〔専門基幹科目〕に1年次より履修する〔入門〕〔文化の発見〕〔文化の体験〕〔文化の活用〕の科目群を置く。〔入門〕では、「地域文化入門」を必修として配置し、〔文化の発見〕では、地域文化の魅力について理解する科目を配置する。〔文化の体験〕では、島根の各地域をフィールドとして体験的に学修する科目を配置する。〔文化の活用〕では、観光まちづくりを通して文化を地域の活性化に結びつける方法を修得する科目を配置する。

3 本学科は、日本及び海外諸地域の文化について探究し、文化を多面的に捉えることができる広い視野を身に付けること、異なる地域や異なる時代の様々な人間の生き方や文化を尊重する寛容と共生の精神を養う

に行うために、専門科目を〔専門基幹科目〕と〔専門発展科目〕の2段階で編成し、さらに〔専門基幹科目〕の中に、科目区分〔教職の意義〕や〔教育の基礎理論〕〔福祉と養護の基礎理論〕等の基礎理論の科目群を必修科目として配置する。

5 集団での協同的実践力の育成を行うことを目的として、4年間の教育課程を通し、実習体験活動やグループ演習を重視した指導を推進する。

ことを目指している。そのために、2年次以降「日本文化コース」及び「国際文化コース」の〔専門科目〕として、日本や海外諸地域の文化や文学、歴史について幅広く学修する科目を配置する。

4 豊かでの確な表現力と円滑なコミュニケーション力を育成するため、1年次の「スタートアップセミナーI・II」から4年次の卒業研究「地域文化プロジェクトII」に至るまで、少人数ゼミでの口頭発表やレポート作成を行う。外国語については、〔学科基礎科目〕の〔言語リテラシー〕や「国際文化コース」の〔専門科目〕において英語を幅広く学び、実践的な英語力を身に付けながら、TOEICや観光英語検定などの資格支援も同時に行う。〔学部共通基礎科目〕には、グローバル社会において重要な第2外国語を配置し、4言語からの選択必修としている。

5 以上の教育課程を統合し、3年次の「地域文化プロジェクトI」、4年次の「地域文化プロジェクトII」において、「日本文化コース」、「国際文化コース」の学びの集大成を図る。

北東アジア開発研究科

【カリキュラム・ポリシー】

【博士前期課程】

博士前期課程には、「スキル科目群」、「専門科目群（専門導入科目・専門科目）」、「研究指導科目群」があります。

- 「スキル科目群」には、複雑化する現代社会の抱える諸課題について、高度職業人として実証を踏まえた統計学的推計に基づく科学的分析ができるように「情報解析科目」を、論文作成に必要な読解を中心とした語学能力を身につけさせるために、「国際言語演習科目」を1年次の配当科目として設けています。
- 「専門科目群」のうち「専門導入科目」は、本学大学院における教育理念を俯瞰的に理解させるための科目で、「北東アジア超域研究総論」「開発政策総論」を、オムニバス形式の授業として1年次の春学期に集中的に配置します。
- 「専門科目群」のうち「専門科目」を専攻としての専門知識の涵養を図りながら論文作成が円滑に行えるように、1年次から2年次に配置します。
- 「研究指導科目」は、修士論文の完成に向けて、論文の作成や研究の進め方について指導する科目で、教員個々の研究の成果を教育に活かしながら、学生が幅広い観点から研究テーマを選定し論文作成が行えるように、教員による集団指導を基本としており、1年次、2年次に配置します。

【博士後期課程】

北東アジア研究を進展させて超域研究を主体とした博士論文指導を行なうことから、論文指導のコースワークを明確にするために、1年次に「北東アジア超域研究指導 I」を、2年次に海外等で調査活動を行なう「特別研究活動」を、3年次に「北東アジア超域研究指導 II」を配置しています。

看護学研究科

【カリキュラム・ポリシー】

【博士前期課程】

<研究者養成コース>

博士前期課程が目指す「島根県の健康課題を深く理解し、保健・医療・福祉の質の向上に向けて、主体的に探求できる研究能力を備え、地域医療を牽引する優れた看護実践者の育成」を達成するために、教育課程の編成には以下3点の特色を持っています。

①島根県の健康課題全体を理解するため、基盤科目には必修科目として「地元創成看護学特論Ⅰ」を設けました。教育分野においては、更に深く健康課題を探求し、地域医療を牽引する看護実践者を育成するため、設置の必要性に鑑み、島根県において特に課題とされる分野に直結する「基盤看護学領域」、「実践看護学領域」、「広域看護学領域」、の3領域を置いています。

②現場の課題発見・探求・解決に取り組むために、基盤科目・専門科目ともにフィールドワークを含む演習科目を配置しています。

③過疎・高齢化が進む中山間地域・離島に暮らす人々の複合的で困難な健康課題にアプローチができるよう、専攻する専門領域に加え、専攻以外の専門領域の科目を選択必修としました。

基盤科目には、生命の尊厳や人間の尊厳を重視した高い倫理観と看護に対する深い理解、地域の健康課題を主体的に探求できる能力、研究上の基礎的能力、コーディネートに必要な知識を学修できる科目を配置しています。

専門科目には、島根県の健康課題の特定領域に焦点を当てて学修し、看護実践能力を高めると共に、研究能力をもった実践者を育成する科目を配置しています。

このように、育成する人材像をめざして教育研究上の目標を達成し、課程での学びを有効にするため、修了要件及び履修方法に則ってコースワークとリサーチワークを連動させ、実践力育成と研究力育成のバランスをとります。

<高度実践者養成コース（助産学領域）>

博士前期課程高度実践者養成コース助産学領域が目指す「島根県の助産学に関する健康課題を深く理解し、助産学の対象となる人々の健康の保持・増進のために、倫理観に基づく実践と課題解決の両面から地域医療を牽引し、変革に取り組むことのできる優れた助産師」を達成するために、教育課程の編成には以下4点の特色を持たせています。

①助産実践並びに助産学の発展に貢献する高度実践者の育成に必要な基礎的素養と優れた判断力を涵養するために「看護倫理特論」を基盤科目の必修に、「助産学特論Ⅰ～Ⅲ」を専門科目の必修に、「課題研究」を課題研究科目の必修に設置しています。

②離島・中山間地域をかかえる島根県の産科医療現場の課題を理解するために「地元創成看護学特論Ⅰ」を基盤科目の必修に設置しています。またハイリスクケアができるための高度な助産実践能力及び指導的能力を育成するために「健康栄養特論Ⅰ」を基盤科目の必修に、「助産診断技術学演習Ⅰ～Ⅶ」、「助産学実習Ⅰ～Ⅲ」を専門科目の必修に設置しています。

③多職種多機関とのコーディネート力を育成するために「コンサルテーション論」を基盤科目の選択として配置しています。そのうえで、地域社会の母子とその家族の健康課題を理解し、子育て世代包括支援ができるための優れた母子保健実践力を育成するために「母

性・小児看護学特論Ⅰ・Ⅱ」、「地域看護学特論Ⅰ」、「助産管理」を専門科目の必修に設置しています。

④助産学における科学的根拠をもとに、問題意識をもって助産の現象を分析し、論理的に探究できる研究能力を育成するために「看護研究方法論Ⅰ」「看護研究方法論Ⅱ」を基盤科目の必修に、「助産学特論Ⅰ」「課題研究」を専門科目の必修に設置しています。

＜高度実践者養成コース 診療看護師（NP）プライマリ・ケア領域＞

高度実践者養成コース 診療看護師（NP）プライマリ・ケア領域が目指す「島根県の健康課題を深く理解し、診療看護師（NP）としての優れた看護判断力と調整力をもって、地域での暮らしや看取りまで見据えた、長期的ケアが実践できる力と研究力を有した高度実践者」を達成するために、教育課程の編成には以下5点の特色を持たせています。

①プライマリ・ケアの分野で医療行為を安全に実施する能力を身につけるために、特定行為研修の研修内容を含み、講義・演習・実習を行います。

②フィジカルアセスメント、臨床薬理学、病態生理学の理解を深める科目を設け、的確な臨床判断、治療の管理、治療効果の判断を実践する基礎的能力を身につけます。

③チーム医療の中で医師ならびに関係者と連携・協働し、対象者の意思決定を尊重した医療・看護を提供する能力を身につけます。

④看護の高度な実践者としての能力の修得と質担保のために、基礎知識確認試験、実習前のOSCE終了時試験など段階的に試験を実施します。

⑤看護学における科学的根拠をもとに、問題意識をもって看護の現象を分析し、論理的に探究できる研究能力を育成するために「看護研究方法論Ⅰ」、「看護研究方法論Ⅱ」を基盤科目の必修に、「NP論」、「プライマリ・ケア看護学特論」を専門科目の必修に、「課題研究」を課題研究科目の必修に設置しています。

【博士後期課程】

①看護実践並びに看護学の発展に貢献する看護教育者・研究者の養成に必要な基礎的素養を涵養するために「看護研究特論Ⅰ」、「看護研究特論Ⅱ」を必修の基盤科目として設定しています。

本研究科の教育研究上の目標の一つに、「看護専門職者として必要な高い倫理観と論理的思考力を持ち、看護学の発展に寄与する研究を自律して行える」をあげています。その基礎的素養を涵養するために「看護研究特論Ⅰ」、「看護研究特論Ⅱ」を設定し、必修としています。

②基盤となる理論と知識を学修し、看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育を展開できるよう「看護教育学研究」を必修の基盤科目として設定しています。

本研究科の教育研究上の目標の一つに、「生涯にわたり研鑽の必要な看護教育学に精通し、高度な専門的知識・技術と教育指導力をもって質の高い教育を展開できる」をあげています。看護教育学を看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育に対応した看護教育を探究する学問領域としてコア科目に位置づけ、本課程修了後に目指す進路に対応できるよう「看護教育学研究」を必修科目として設定しています。

③過疎・高齢化が進展する中山間地域・離島地域における健康課題を把握し、基盤となる知識や地域課題の特性を学修するために「看護研究特論Ⅰ」を必修とし、「地元創成看護学特論Ⅱ」、「保健医療福祉政策論Ⅱ」、「健康栄養特論Ⅱ」を選択必修の基盤科目として設定しています。

本研究科の教育研究上の目標の一つに、「過疎・高齢化が進展する中山間地域・離島地域における健康課題を把握し、健康栄養など地域のニーズに合った保健・医療・福祉施策の進展に向けた研究的取

り組みができる」としています。本課程修了後に目指す進路並びに研究テーマに合わせて、基盤となる理論と知識の学修をするため「看護研究特論Ⅰ」を基盤科目の必修科目として設定しています。また、「地元創成看護学特論Ⅱ」、「保健医療福祉政策論Ⅱ」、「健康栄養特論Ⅱ」を基盤科目として設定し、選択必修科目としています。

④専門領域の実践と研究の課題、用いられる研究方法について追究し、学位論文への取り組みへ導くよう「看護教育学特論Ⅲ」、「精神看護学特論Ⅲ」、「成人・老年看護学特論Ⅲ」、「地域看護学特論Ⅲ」、「母性・小児看護学特論Ⅲ」の専門科目を設定しています。本研究科の教育研究上の目標の一つに「看護ケアが提供される場に関与する多様な要因を把握して、看護提供システムの改善・改革を目指した研究を指導できる」と「看護の専門分野における多様かつ複雑な問題の研究的解明とその成果を適用しつつ、多職種と連携し研究活動を推進できる」をあげています。修士課程の研究課題を発展させ専門領域の実践と研究の課題、用いられる研究方法について追究し、学位論文への取り組みへ導くよう「看護教育学特論Ⅲ」、「精神看護学特論Ⅲ」、「成人・老年看護学特論Ⅲ」、「地域看護学特論Ⅲ」、「母性・小児看護学特論Ⅲ」の5科目を専門科目として設定し、選択できるようにしています。

⑤学位論文の研究に多様な視点で計画的に取り組むために、早期から専門科目と「後期特別研究」を設定しています。

本課程において最終的な成果は、学位論文を作成することにあります。その成果を標準修業年限の3年間で達成するためには、早期から計画的に取り組む必要があるため、専門科目を1年・通年科目、「後期特別研究」を1～3年・通年科目で設定しています。

また、「後期特別研究」は履修する専門科目の分野において研究課題を設定し、主研究指導教員及び副研究指導教員による複数指導体制を基本としています。他の研究指導教員による共同指導体制を加えることにより多様な視点から研究課題を助言・指導し、この教育研究上の目標を達成し、学位論文の研究への取り組みを導きます。